



医師不足地域を支える医師



中東遠総合医療センター
救急科部長
大林 正和 先生

掛川市・袋井市それぞれの市立病院が合併して2013年に出来た中東遠総合医療センターで救急医として勤務しています。この病院で働くまで静岡県には縁もゆかりもありませんでしたが、働くようになって既に5年以上が経過しました。当初はこれほど長く勤務するとは思っていませんでしたが、近隣地域の救急患者を一手に引き受ける仕事のやりがい、一緒に働きたいと思えるスタッフの存在や地域住民との交流もあり、充実した医師生活を送っています。

統計では静岡県全体としても当地域としても住民あたりの医師数は少ないですが、実際に救急医として働いていて医師不足で困った、という印象はありません。ありがたいことにここ数年は多くの医学生が見学に訪れ初期研修先として選択していただいているため、救急外来はやる気に満ちた研修医で賑わっています。そんな彼らがこの先どのような道に進もうとも、目の前の困っている患者に適切な初期診療を行えるように教育することが、自分のやるべきことと自負しています。救急科に限って言えば、他の診療科や当院で育った専攻医、非常勤職員にも協力いただいて、時間外の救急業務を分担しており、日勤帯・当直帯の変わり目ではスムーズに勤務を引き継ぐため、長時間拘束されることもありません。

掛川市・袋井市の20万人だけでなく隣接する地域の救急患者も受け入れているため、救急搬送台数は5,500台を超え、そのバリエーションは非常に豊富です。初期研修医としても専攻医としても十分な救急医療の経験を積むことが出来ます。救急科のスタッフは私も含めて、救急科専門医だけでなく集中治療専門医も取得しており、外来での重症患者診療から続く集学的な入院治療を経験することが可能です。脳死下臓器提供や重症COVID-19診療といった専門性の高い分野にも積極的に取り組んでいます。

この記事を読んでくれた医学生や若手医師の皆さんが興味をもって来て、一緒に働けることを心より楽しみにしています。